科　目　名	現代社会と経済	科目分類	■第１グループ　□第２グループ ■必修　□選択 ■必修　□選択
英文表記	Modern Society and Economy	開講年次	■１年　□２年　□３年　□４年
ふりがな 担当者名	やまもと　しゅん 山本　　俊	開講期間 修得単位	■前期　□後期　□通年　□集中 ２　単位
授業の到達目標及びテーマ	日本の経済問題と日本経済の特徴を関連付けて学習する。各受講者は授業を通じて日本経済の全体像を描き、個別専門領域に取り組むための基盤形成を期待する。		
準備学習	①　高校政治経済の教科書を再読されたい。 ②　授業の復習は必ずその日に行うこと。		

【授業概要】これから経済学を学ぼうとすることを前提に、現代の経済社会を概観し、各経済問題とのつながりをみる。授業は３部から構成される。第１部では経済システムの形成過程に注目し、第２部では経済の構造的問題に注目する。第３部では最近の経済問題に注目する。グラフの見方や統計データの利用方法についても学習する。定期的に確認問題を配布するので、解答した後に提出して欲しい。

授業計画

第１部（第１回、第２回、第３回、第４回）　テーマ：戦後復興と日本の経済成長、講義資料配布
ガイダンス、第２次世界大戦後の日本の復興を大きく振り返える。日本の経済成長を世界の国々の経済成長パターンと対比する。資本蓄積、技術進歩、貿易の役割、高貯蓄などの成長要因に注目する。前半は、戦後復興期、中盤は高度経済成長期、後半は低成長期を扱う。

第２部（第５回、第６回　第７回、第８回）テーマ：　日本の経済システム、講義資料配布
混合経済の視点から、市場活動と政府の役割を論じる。企業、労働、金融などの領域での日本の特徴を検討し、世界の多様な資本主義と対比する。後半では、社会保障や平等・不平等について言及する。

第３部①（第９回）　テーマ：我が国の人口の変化と労働問題、講義資料配布
我が国の人口問題を取り上げる。また、日本的雇用慣行の変化と非正規雇用について取り上げる。

第３部②（第10回）　テーマ：地域間格差と地方分権、講義資料配布
地域間格差とそれを是正するための政府の政策について考察する。

第３部③（第11回）　テーマ：日本の食料と農業、講義資料配布
日本の食糧問題と農業政策について取り上げる。セーフガードの発動、環太平洋戦略的経済連携協定(TPP)

第３部④（第12回、第13回）　テーマ：金融制度と金融市場の変化、講義資料配布
日本の金融システムの変化を、金融ビックバン、バブル崩壊後の「市場型間接金融」などの制度改革に注目して解説する。

第３部⑤（第14回）　テーマ：失われた十年、講義資料配布
バブル崩壊後の十年以上の長期的な経済停滞のマクロ経済問題を論じる。資本ストックの過剰、不良債権問題、景気回復のマクロ経済政策などを取り上げる。

第３部⑥（第15回）テーマ：変化する産業構造、講義資料配布
産業構造の変化を工業統計、商業統計を利用して確認する。

第16回　期末試験
試験範囲：第１回から第15回まで。

テキスト	講義資料を配布する。ただし、以下の文献を手元に置いて学習することを薦める。 金森久雄 他 編『日本経済読本』東洋経済新報社、2009年
参考文献	①浅子和美・篠原総一 編『入門・日本経済』有斐閣、1997年 ②寺西重郎『日本の経済システム』岩波書店、2003年 ③原朗 編著『高度成長始動期の日本経済』日本経済評論社、2010年 ④斎藤修『比較史の遠近法』NTT出版、2000年
評価の方法	期末試験70%、課題(確認問題)20%、出席状況10%の合計を基に評価する。 優:80%以上、良:70%以上、可:60%以上、不可:60%未満 課題は受講者が理解度を自ら確認するという意味でも重要である。 試験については努力が報われるような出題を心がける。
学生へのメッセージ	日本経済についての好奇心を喚起し、さらに詳しく学びたくなるような授業としたい。

科　目　名	経営学Ⅰ	科目分類	■第１グループ　□第２グループ	
			経済学部	ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ　■必修 経済学科　■選択
			法学部	□必修　■選択
英文表記	Business Administration Ⅰ	開講年次	経済■１年　法学■２年	
ふりがな	イ　チョン　ミン	開講期間	■前期　□後期　□通年　□集中	
担当者名	李　廷　珉	修得単位	２単位	
授業の到達目標及びテーマ	〔到達目標〕企業組織に関する基礎的知識の獲得 〔テーマ〕　経営組織論の基礎			
準備学習	特に予備知識は要求しない。ただし、身近に存在する組織の構造を見つめることが望まれる。また、参考文献の関連部分を事前に読んでおくことが望ましい。			

【授業概要】経営学とは企業(広くとらえれば組織)の運営に関する学問である。企業経営は「戦略を立てる」「組織を作る」「人を動かす」という３つのマネジメント活動から成り立つ。本講義はそのうちの「組織を作る」という視点ら立ち、企業組織のあり方を考察する。

授業計画

第１回　企業における３つのマネジメント活動―戦略を立てる、組織を作る、人を動かす―

第２回　２つの組織観―機械観と有機体観―

第３回　ウェーバーの官僚制組織論

第４回　官僚制の逆機能

第５回　バーナードの組織論Ⅰ

第６回　バーナードの組織論Ⅱ

第７回　サイモンの組織論

第８回　チャンドラーの命題

第９回　組織のコンティンジェンシー理論とは何か

第 10 回　環境学派のコンティンジェンシー理論Ⅰ

第 11 回　環境学派のコンティンジェンシー理論Ⅱ

第 12 回　環境学派のコンティンジェンシー理論Ⅲ

第 13 回　技術学派のコンティンジェンシー理論Ⅰ

第 14 回　技術学派のコンティンジェンシー理論Ⅱ

第 15 回　まとめ

第 16 回　期末試験

テキスト	使用しない
参考文献	坂下昭宣(2007)『経営学への招待』白桃書房
評価の方法	期末試験を中心に、授業中に課す課題を加味して評価する。
学生へのメッセージ	本講義を通じて企業組織のあり方や構造を理解できれば、たいへん望ましいことである。

科　目　名	入門経済学	科目分類	■第１グループ　□第２グループ ■必修　□選択 ■必修　□選択
英文表記	Introductory Economics	開講年次	■１年　□２年　□３年　□４年
ふりがな	やまもと　しゅん	開講期間 修得単位	■前期　□後期　□通年　□集中 ２　単位
担当者名	山本　　俊		
授業の到達目標及びテーマ	私たちは自分自身の日常的な行動を当然のように考えており、再考することは少ない。この講義を受講することで、自分自身の行動の背後にどのような経済的要因があるのかを理解できるようになって欲しい。		
準備学習	①　高校の政治経済の教科書を再読されたい。 ②　授業の復習は必ずその日に行うこと。		

【授業概要】経済学の分析対象が人や人の集合であることに意識し、人々の期待や不安、合理性が経済理論にどのように組み込まれているのかを積極的に解説します。

授業計画

第１回　経済学とは何か？
　　みなさんは、この４年間どのような経済分野を中心に学習するのか？

第２回　国民経済計算①　：生産物は誰かが購入し、誰かの所得を生み出す。

第３回　国民経済計算②　：国内総生産（GDP）と三面等価の原則

第４回　国民経済計算③　：物価変動と物価指標、GDP デフレータ、消費者物価指数、指数の解説

第５回　（短期）財市場における総需要と総供給：　総需要を構成する消費や投資、政府支出などについて

第６回　消費関数：　何が消費を刺激するのか？

第７回　投資関数：　投資とは何か？　何が投資をもたらすのか？　困難な投資の予測

第８回　（短期）財市場における均衡分析①：　45 度線と乗数効果のメカニズム、将来への期待と不安

第９回　（短期）財市場における均衡分析②：　過少雇用均衡と財政政策、減税か公共投資か？

第 10 回　個人の需要曲線から市場の需要曲線へ：　市場メカニズムとその限界、公務員の必要性

第 11 回　消費行動における合理的行動について①：　桃より柿が好き。柿より苺が好き。苺より桃が好き？

第 12 回　消費行動における合理的行動について②：　あれもこれも消費したい。しかし、予算が足りない。

第 13 回　企業の合理的行動について①：　何個生産すれば、利益は最大化するのか？

第 14 回　企業の合理的行動について②：　企業は販売価格を勝手に決めることができるのか？

第 15 回　情報の経済学と不確実性：　保険に入ると事故に遭う？

第 16 回　期末試験　：試験範囲：第１回から第 15 回まで。

テキスト	講義資料を配布する。ただし、以下の文献を手元に置いて学習することを薦める。 伊藤元重 『入門　経済学』日本評論社　第３版、2009 年
参考文献	①市岡修『経済学』有斐閣コンパクト、2000 年 ②今喜典他『基本現代経済学』中央経済社、1992 年
評価の方法	期末試験 70%、課題(確認問題)20%、出席状況 10%の合計を基に評価する。 優:80%以上、良:70%以上、可:60%以上、不可:60%未満 課題は受講者が理解度を自ら確認するという意味でも重要である。 試験については努力が報われるような出題を心がける。
学生へのメッセージ	経済学についての好奇心を喚起し、さらに詳しく学びたくなるような授業としたい。

科　目　名	経済学の歴史Ⅰ	科目分類	■第１グループ　□第２グループ	
			経済	□必修　■選択
			マネジ	□必修　■選択
英文表記	The History of Economic Thought Ⅱ	開講年次	■１年 □２年 □３年 □４年	
ふりがな	しまだ　こうや	修得単位	２単位	
担当者名	嶋田　耕也			
授業の到達目標及びテーマ	〔到達目標〕　学説によって社会の見方が変化するのを理解しよう。 〔テーマ〕　古典学派から新古典派へ			
準備学習	日頃の現実的な経済問題が経済学説に直結しています。学説史は皆さんの現実的な経済への関心によって理解が進みます。			

【授業概要】アダム・スミスの経済学とは何か。それを引き継いだリカード、マルクスは何を発展させたのか。そして新古典派は、スミスの何を受け継ぎ、何を放棄したのか。

授業計画
第１回　経済学全体の大きな流れ
第２回　アダム・スミス　経済学の父
第３回　アダム・スミスと重商主義
第４回　アダム・スミスの経済理論
第５回　リカードの経済理論
第６回　マルクスの経済理論
第７回　マルクスの資本論
第８回　新古典学派　ジェヴォンズ、ワルラス、メンガー
第９回　効用価値学説と限界革命
第 10 回　市場の経済学　1
第 11 回　市場の経済学　2
第 12 回　市場の経済学　3
第 13 回　市場の経済学　4
第 14 回　市場の経済学　5
第 15 回　ケインズの登場
第 16 回

テキスト	使用せず。プリント配布、および板書。
参考文献	授業時に指示します。
評価の方法	出席回数とテストの点数。
学生へのメッセージ	18 世紀の経済学者、スミスを理解しよう。

科　目　名	情報の科学	科目分類	■第１グループ　□第２グループ 経済　□必修　■選択 　　□必修　□選択
英文表記	Introduction to Computer Science	開講年次	■１年　□２年　□３年　□４年
ふりがな	すずき　ひであき	開講期間	■前期　□後期　□通年　□集中
担当者名	鈴木　秀顕	修得単位	２単位
授業の到達目標及びテーマ	情報の性質を理解し、その処理と表現方法を理解する。		
準備学習	情報と、経済や経営との関わりを捉えながら、進めていきます。経営の基礎的知識も必要となっていきますので、社会の動向に興味を持ち、自分の意見を持つようにしてください。		

【授業概要】情報大爆発時代といわれる現代において、情報を収集、整理、分析、最適化する能力の醸成が求められています。まずは、情報の主な取得源となる、コンピュータの仕組みや社会との関わりを捉えながら、自分の考えをまとめ、表現できるまでの基礎を学びます。

授業計画
第１回　　ガイダンス
第２回　　情報の学び方１
第３回　　情報の学び方２
第４回　　情報倫理１
第５回　　情報倫理２
第６回　　情報ネットワークの枠組み
第７回　　コンピュータの仕組み
第８回　　情報を収集する１
第９回　　情報を収集する２
第 10 回　情報を分析する１
第 11 回　情報を分析する２
第 12 回　情報を最適化する１
第 13 回　情報を最適化する２
第 14 回　情報を発信する
第 15 回　情報技術と社会
第 16 回　テスト

テキスト	川合慧著『情報』(東京大学出版会)
参考文献	大内東、栗原正仁、岡部成玄著『情報学入門―大学で学ぶ情報科学・情報活用・情報社会』(コロナ社)
評価の方法	テスト 50%、レポート 20%、出席 30%の割合で評価。
学生へのメッセージ	情報社会をきちんと捉え、大学生として必要な素養を学ぶことが望まれます。

科　目　名	簿記入門 I	科目分類	■第１グループ　□第２グループ 経済　□必修　■選択 教職(商業)　■必修　□選択
英文表記	An Introduction to Bookkeeping I	開講年次	■１年　□２年　□３年　□４年
ふりがな	くにい　のりお	修得単位	４単位
担当者名	國　井　法　夫		
授業の到達目標及びテーマ	〔到達目標〕 日商簿記検定３級取得・簿記の知識を身につける。		
準備学習	身体で覚えるという気持ちで何回も問題演習をやること。		
授業概要	複式簿記の初歩から決算までを問題演習を行いながら段階的に学習する。		

授業計画

第１回　簿記の意味・目的・種類	第 17 回　売掛金と買掛金(2)
第２回　簿記の基礎概念(1)	第 18 回　その他の債権と債務(1)
第３回　簿記の基礎概念(2)	第 19 回　その他の債権と債務(2)
第４回　取引と勘定と仕訳(1)	第 20 回　手形(1)　約束手形　手形の裏書の処理
第５回　取引と勘定と仕訳(2)	第 21 回　手形(2)　為替手形の処理　割引の処理
第６回　帳簿の記入	第 22 回　有価証券・固定資産
第７回　決算と財務諸表(1)	第 23 回　減価償却
第８回　決算と財務諸表(2)	第 24 回　資本金と引出金
第９回　現金預金取引(1)	第 25 回　収益と費用
第 10 回　確認小テスト	第 26 回　税金、帳簿と伝票
第 11 回　現金預金取引(2)	第 27 回　決算と財務諸表
第 12 回　現金預金取引(3)	第 28 回　決算と財務諸表(3)
第 13 回　商品売買(1)	第 29 回　決算と財務諸表(4)
第 14 回　商品売買(2)	第 30 回　模擬試験
第 15 回　模擬試験	第 31 回　テスト
第 16 回　売掛金と買掛金(1)	第 32 回

テキスト	プリント
参考文献	
評価の方法	テスト・出席日数・課題提出・授業態度等で総合的に評価する。
学生への メッセージ	日商簿記３級を全員取得するように努力してもらいます。

（半期・２単位）

科　目　名	流通システムⅠ	科目分類	■第１グループ　□第２グループ	
			経済	□必修　■選択
			マネジ	□必修　■選択
英文表記	Distribution System Ⅰ	開講年次	□１年 ■２年　□３年 □４年	
ふりがな	イ　チョン　ミン	開講期間	■前期 □後期 □通年 □集中	
担当者名	李　廷　珉	修得単位	２単位	
授業の到達目標及びテーマ	〔到達目標〕流通という活動が誕生した背景、及び流通の意義や役割を理解すること。 〔テーマ〕　流通の基礎理論			
準備学習	まずは身近に見られる流通という活動に着目してもらいたい。その上で、流通という活動の意味を考えてもらいたい。そうすることが講義の理解を深めることになる。			

【授業概要】流通という活動は生産と消費の橋渡しに位置づけられる。我々の経済活動は流通という活動なしには成立しない。このように今日の我々の経済生活の中で重要な位置にある流通の基礎について本講義の中で学んでいく。

授業計画
第１回　生産形態の歴史的変化
第２回　交換の成立
第３回　貨幣の登場と交換
第４回　商業の成立と分業の調整
第５回　多段階市場の形成
第６回　多段階市場の機能
第７回　多段階市場と取引の計画性
第８回　商業による品揃え形成過程１
第９回　商業による品揃え形成過程２
第10回　品揃え形成活動の場
第11回　商業の社会性と売買の集中１
第12回　商業の社会性と売買の集中２
第13回　売買集中の原理(第一原理)
第14回　売買集中の原理(第二原理)
第15回　まとめ
第16回　期末試験

テキスト	必要であれば、講義の中で紹介する。
参考文献	講義の中で紹介する。
評価の方法	期末試験を中心に、授業中に課す課題を加味して評価する。
学生へのメッセージ	本講義を通じて流通という活動の位置付けと役割、その内容を理解できれば、たいへん望ましいことである。

科　目　名	国際金融論 I	科目分類	■第１グループ　□第２グループ 経済　□必修　■選択
英文表記	International Finance I	開講年次	□１年 ■２年 □３年 □４年
ふりがな 担当者名	まえだ　なおや 前田　　直哉	修得単位	2　単位
授業の到達目標及びテーマ	〔到達目標〕国際金融の基礎理論を理解する。 〔テーマ〕国際金融論		
準備学習	講義前にテキストを必ず読んで、予習すること。		

【授業概要】1990 年代以降、金融のグローバリゼーションが進み、劇的な変化を見せる国際金融の現状を理解するためには、国際金融の基礎理論のみならず、その歴史・制度についても幅広く知ることが必要である。本講義の目的は国際金融の基礎理論を理解することにある。

授業計画
第１回　ガイダンス
第２回　国際決済と外国為替：　外国為替取引と銀行間決済
第３回　外国為替市場と為替レート(1)：外国為替市場の構成と銀行の為替持高・資金操作
第４回　外国為替市場と為替レート(2)：為替取引と為替レート
第５回　外国為替市場と為替レート(3)：カバー付き金利裁定取引
第６回　外国為替市場と為替レート(4)：通貨オプションと通貨先物
第７回　小テスト
第８回　為替相場の決定理論(1)：購買力平価説
第９回　為替相場の決定理論(2)：カバーなし金利平価説
第 10 回　為替相場の決定理論(3)：オーバーシューティング・モデル
第 11 回　為替相場の決定理論(4)：ポートフォリオ・バランス・モデル
第 12 回　小テスト
第 13 回　国際金融市場(1)：伝統的市場
第 14 回　国際金融市場(2)：ユーロ市場
第 15 回　国際金融市場(3)：ディリバティブス市場
第 16 回　定期試験

テキスト	上川孝夫・藤田誠一編(2012)『現代国際金融論[第４版]』有斐閣。
参考文献	特になし。
評価の方法	定期試験、小テスト(2 回)、平常点。
学生へのメッセージ	授業の進め方と評価方法については初回のガイダンスで詳しく説明するが、特に講義進行を著しく妨げるような行為や不良な受講態度に対しては然るべき処置を取る。

科　目　名	国際経済学Ⅰ	科目分類	■第１グループ　□第２グループ 経済　□必修　■選択
英文表記	International Economics Ⅰ	開講年次	□１年　■２年　□３年　□４年
ふりがな	まえだ　なおや	修得単位	2　単位
担当者名	前田　　直哉		
授業の到達目標及びテーマ	〔到達目標〕為替レートと国際収支の基礎理論を理解する。 〔テーマ〕為替レートと国際収支		
準備学習	講義後に復習を必ず行うこと。		

【授業概要】1990 年代に入って経済のグローバリゼーションが急速に進んだ。この現象を理解するためには国際経済学の理論のみならず、その歴史･制度についても学習することが必要である。本講義の目的は為替レートと国際収支の基礎理論を学ぶことにある。

授業計画

第１回　ガイダンス

第２回　国民経済計算と国際収支統計

第３回　国際収支表の見方(1)

第４回　国際収支表の見方(2)

第５回　小テスト

第６回　為替レートと経常収支(1)

第７回　為替レートと経常収支(2)

第８回　開放経済における国民所得決定：貿易乗数(1)

第９回　開放経済における国民所得決定：貿易乗数(2)

第 10 回　開放経済における国民所得決定：貿易乗数(3)

第 11 回　小テスト

第 12 回　為替レートと為替相場制度

第 13 回　国際マクロ政策：マンデル＝フレミング･モデル(1)

第 14 回　国際マクロ政策：マンデル＝フレミング･モデル(2)

第 15 回　国際マクロ政策：マンデル＝フレミング･モデル(3)

第 16 回　定期試験

テキスト	適宜、レジュメを配布する。
参考文献	特になし。
評価の方法	定期試験、小テスト(2 回)、平常点。
学生へのメッセージ	授業の進め方と評価方法については初回のガイダンスで詳しく説明するが、特に講義進行を著しく妨げるような行為や不良な受講態度に対しては然るべき処置を取る。

（半期・２単位）

科　目　名	マーケティングⅠ	科目分類	■第１グループ　□第２グループ 経済　□必修　■選択 マネジ　□必修　■選択
英文表記	Marketing Ⅰ	開講年次	□１年　■２年　□３年　□４年
ふりがな	すずき　ひであき	開講期間	■前期　□後期　□通年　□集中
担当者名	鈴　木　秀　顕	修得単位	２単位
授業の到達目標及びテーマ	〔到達目標〕マーケティングに関する基礎知識の獲得 〔テーマ〕　マーケティングの発想を学ぶ		
準備学習	事前にテキストの関連部分を読んでおくことが望ましい。また、身近に存在する企業のマーケティング活動に着目すること。		

【授業概要】マーケティングとは企業による市場創造活動である。本講義は、マーケティングという活動の背後にある基礎的な発想や論理に着目しながら、マーケティングの基礎を解説していく。

授業計画
第１回　マーケティング発想の経営Ⅰ―売れる製品を作る―
第２回　マーケティング発想の経営Ⅱ―価値と性能の違い―
第３回　マーケティング論のなりたちⅠ―マーケティング論の誕生―
第４回　マーケティング論のなりたちⅡ―マーケティング論の特徴―
第５回　マーケティングの基本概念Ⅰ―ＳＴＰ―
第６回　マーケティングの基本概念Ⅱ―４つのＰ―
第７回　戦略的マーケティングⅠ―経営戦略との関係―
第８回　戦略的マーケティングⅡ―戦略の進化―
第９回　戦略的マーケティングⅢ―製品ポートフォリオマトリックス―
第 10 回　戦略的マーケティングⅣ―競争地位別の市場目標と戦略―
第 11 回　製品のマネジメント
第 12 回　価格のマネジメント
第 13 回　広告のマネジメント
第 14 回　チャネルのマネジメント
第 15 回　まとめ
第 16 回　期末試験

テキスト	石井淳蔵・廣田章光編『１からのマーケティング』碩学舎
参考文献	講義の中で紹介する。
評価の方法	期末試験を中心に、授業中に課す課題を加味して評価する。
学生へのメッセージ	本講義を通じて企業のマーケティングに関する基礎的な考え方を理解できれば、たいへん望ましいことである。

科　目　名	現代ファイナンス論Ⅰ	科目分類	■第1グループ　□第2グループ □必修　■選択 □必修　■選択
英文表記	Theory of Modern Finance Ⅰ	開講年次	□1年 ■2年 □3年 □4年
ふりがな 担当者名	やまもと　しゅん 山本　　俊	開講期間 修得単位	■前期 □後期 □通年 □集中 2　単位
授業の到達目標及びテーマ	ファイナンスの基本を身につけ、現実の金融取引の仕組みや新聞の金融記事を理解できるようになること。ファイナンスの主体的学習を可能にすること。		
準備学習	①高校数学（特に、数列、微分）の復習。ただし、前提にはしない。授業でもその都度説明する。数学が苦手な受講者はこの際に習得して欲しい。 ②授業の復習は必ずその日に行うこと。		

【授業概要】この授業ではファイナンスを広く捉え、金融の仕組み、金融の主体、金融制度、金融市場、各主体の理論、金融政策の基本を学習する。つまり、ファイナンスの各論を学習する「現代ファイナンス論Ⅱ」や「銀行の業務」の基礎科目として位置付けることができる。また、確認問題を定期的に配布するので、解答後に提出して欲しい。

授業計画

第1回　テーマ：金融の仕組み、講義資料配布
ガイダンス、金融の主体と資金循環、金融の方式と機能、金融仲介と金融機関、貨幣の機能

第2回、第3回、第4回、第5回テーマ：金利と資産価格、講義資料配布
第2回　流動性、利子率（名目・実質）
第3回　リスクプレミアム、利回りと債券価格
第4回　金利の期間別構造
第5回　株価決定、バブル

第6回、第7回テーマ：金融派生商品取引の概要、講義資料配布
第6回　金融派生商品の特徴、先物・先渡取引
第7回 スワップ取引、オプション取引

第8回、第9回　第10回テーマ：企業金融、講義資料配布
第8回　投資の評価方法
第9回　企業の資金調達
第10回 MM定理

第10回、第11回、第12回　テーマ：日本の金融制度と金融市場、講義資料配布
第11回　金融構造、家計・企業の資産保有、金融制度と金融機関、公的金融、規制緩和の変遷
第12回　短期金融市場、証券市場、金融政策（公開市場操作）、外国為替市場

第13回、第14回、第15回　テーマ：金融機関の機能、講義資料配布
第13回　銀行規制と金融危機、信用創造、
第14回　金融仲介機能と情報生産、規模と範囲の経済、メインバンク制
第15回　情報の非対称性、モニタリング、スクリーニング、逆選択とモラルハザード

第16回　期末試験
試験範囲：第1回から第15回まで。

テキスト	講義資料を配布する。以下の文献を手元に置いて学習することを薦める。 壹間文彦(2011)『基礎コース金融論』（第3版）新世社
参考文献	①ボディ・マートン『現代ファイナンス論』(原著第2版)ピアソン桐原、2011年 ②古川顕(2006)『現代の金融』（第2版）東洋経済
評価の方法	期末試験70%、課題(確認問題)20%、出席状況10%の合計を基に評価する。 優:80%以上、良:70%以上、可:60%以上、不可:60%未満 課題は受講者が理解度を自ら確認するという意味でも重要である。 試験については努力が報われるような出題を心がける。
学生へのメッセージ	どのような分野で活躍するにも金融の基本事項は必須であるので、多くの受講者を歓迎する。この授業では、新しい知識を習得すること以上に、考えるプロセスを重視する。

科　目　名	経済政策のしくみ	科目分類	■第１グループ　□第２グループ 経済　□必修　■選択
英文表記	Policy of Economy	開講年次	□１年 □２年 ■３年 □４年
ふりがな	のぐち　ひでゆき	開講期間	■前期 □後期 □通年 □集中
担当者名	野口　　秀行	修得単位	２　単位
授業の到達目標及びテーマ	〔到達目標〕２１世紀の日本経済の行方 〔テーマ〕日経新聞が理解できる社会人に。		
準備学習	・常に復習しておくこと		

【授業概要】日本経済の復活と経済政策との関連を学ぶとともに、今後予想される総人口の減少、地球温暖化などの環境制約、資源制約、BRICS の台頭など、日本経済を取り巻く諸課題を克服していくための経済政策について検討する。

授業計画

第１回　戦後の日本経済の復興とそれを支えた経済政策

第２回　臨海工業団地の創生とその背景～発想の転換・東北の失敗

第３回　太平洋戦争の失敗から生まれた日本工業規格～失敗学のすすめ

第４回　1950 年代に創業した企業群と高度成長～マインド・セットとは

第５回　オイルショックと産業構造転換～重厚長大→軽薄短小→知識・情報へ

第６回　ジャパンアズナンバーワンと日米欧の貿易戦争（トップになれなかった日本）

第７回　ビル・エモット「日はまた沈む」～バブル経済の破綻とビル・エモット「日はまた昇る」

第８回　少子高齢化と科学技術創造立国への産業政策の大転換

第９回　1995 年の阪神淡路大震災と超円高そして世界的な金融資産の膨張の関係

第 10 回　世界的なバブル経済とその破綻としてのリーマンショック

第 11 回　金融危機を招いたＣＤＳとその仕組み

第 12 回　リーマンショック後の世界経済のパラダイムシフト・中国のバブル・ユーロの解体

第 13 回　中国をはじめとするＢＲＩＣｓの台頭と日中韓ＦＴＡ

第 14 回　ＴＰＰと日本経済～ＴＰＰにより日本経済はどう変化していくのか

第 15 回　アベノミクスとは～リフレ派と構造派

第 16 回　期末試験

テキスト	プリント配布
参考文献	追って連絡します
評価の方法	期中のレポートおよび期末試験の結果を総合して判断します。
学生へのメッセージ	経済を面白く楽しく学びます

科　目　名	コミュニティ・ビジネス	科目分類	■第１グループ　□第２グループ 経済　□必修　■選択
英文表記	Community　Business	開講年次	□１年　□２年　■３年　□４年
ふりがな	のぐち　ひでゆき	開講期間	■前期　□後期　□通年　□集中
担当者名	野口　秀行	修得単位	２　単位
授業の到達目標及びテーマ	〔到達目標〕オールタナティブ・エコノミーの最先端を学ぶ 〔テーマ〕コミュニティ・ビジネスが地域を活性化する		
準備学習	・事前配布のプリントに目を通しておくこと		

【授業概要】コミュニティ・ビジネスの目的は、住民主体のスモールビジネスを導入し、コミュニティに存在する様々な問題の解決に貢献することにあるが、それはボランティアと企業の中間的な領域に位置しているものであり、地域社会のネットワークに支えられて成立しうるものでもある。各地で芽吹きつつあるコミュニティ・ビジネスは、バランスの取れた経済社会の発展を支えるという側面からみても、社会的な意義は大きいといえる。

授業計画

第１回	コミュニティ・ビジネスとは
第２回	もう一つの経済（ノン・プロフィット・エコノミー）が果たす役割
第３回	ＮＰＯとコミュニティ・ビジネス～地域を変える力とは
第４回	欧米におけるコミュニティ・ビジネスの事例～豊かさを実感できる社会の構築
第５回	我が国におけるコミュニティ・ビジネスの事例～いま地方が面白い！
第６回	コミュニティビジネス・スモールビジネス・ソーシャルビジネスの違い
第７回	我が国における起業環境とベンチャーファンド～ＰＥＦ及びＢＯＦを中心に
第８回	伝統的中小企業論と 21 世紀型の中小企業論～特に技術論を中心に
第９回	モバゲー論の虚実～金型産業を事例に我が国の中小企業のグローバル化を考える
第 10 回	地域金融論～欧米の多様なコミュニティ・ファイナンス
第 11 回	我が国における地域金融論～地域金融のビッグバン
第 12 回	我が国におけるコミュニティ・ファイナンスの事例（１）
第 13 回	ＮＰＯバンクについて
第 14 回	ソーシャルビジネス・老舗企業が地域経済を変える
第 15 回	ソーシャルビジネス・老舗企業の事例
第 16 回	期末試験

テキスト	プリント配布
参考文献	追って連絡します
評価の方法	期中のレポートおよび期末試験の結果を総合して判断します。
学生へのメッセージ	本講義では、コミュニティ・ビジネスとそれを支えるコミュニティ・ファイナンスについて学びます。

科　目　名	企業の経営戦略	科目分類	■第１グループ　□第２グループ 経済　□必修　■選択 □必修　■選択
英文表記	Corporate Strategy	開講年次	□１年　□２年　■３年　□４年
ふりがな	イ　チョン　ミン	開講期間	■前期　□後期　□通年　□集中
担当者名	李　廷　珉	修得単位	２単位
授業の到達目標及びテーマ	〔到達目標〕戦略的思考を身につけ就職活動に役立てる 〔テーマ〕グローバル企業の戦略（型）経営		
準備学習	講義資料（講義時に配布）を事前に読んでおくことが望ましい。		

【授業概要】経営史家として有名なチャンドラーによれば、戦略（strategy：ストラテジー）とは、「長期的な目標を定め、それをいかに達成するかという方針」のことです。したがって、戦略は何も取締役などの経営陣や経営企画部などの管理担当者だけに必要なものではなく、全社的に意識を高めるという点であらゆる部署の担当者にも必ず必要なものです。本講義では、こうした経営戦略の理論的かつ実践的側面の両義性の理解を強調したく、企業業績を産業構造的要因や競争環境要因に求め、経営戦略論の研究の発展に貢献したポーター教授の業績をわかりやすく解説します。

授業計画

第１回　イントロダクション

第２回　戦略の理解

第３回　経営環境の理解－SWOT 分析－

第４回　経営環境の理解－外部環境の分析－

第５回　経営環境の理解－内部環境の分析－

第６回　事業ドメインの確立

第７回　成長戦略－製品・市場マトリックス

第８回　成長戦略－プロダクト・ポートフォリオ・マネジメント（PPM）

第９回　競争戦略－ポーター教授と競争戦略の意義－

第 10 回　競争戦略－業界分析（five forces analysis）

第 11 回　競争戦略－３つの基本戦略－

第 12 回　競争戦略－価値連鎖（value chain）と戦略的ポジションニング－

第 13 回　競争戦略－経営戦略研究の最近の動向について（RBV の考え方との関連で）－

第 14 回　戦略実行とコントロール

第 15 回　復習・総括

第 16 回　期末試験

テキスト	講義資料を配布する
参考文献	講義中に紹介する
評価の方法	定期試験＋授業態度（発言カード:3 分の 2 以上の出席が単位認定の条件）
学生へのメッセージ	この講義の目的の一つは企業の経営戦略を学習することによって戦略的思考を身につけることです。戦略的思考が可能になれば、たとえば資格取得や公務員試験のための学習、仕事など実に多様な場面で合理的に行動し問題を解決することができるようになります。